

産業技術委員会



〔講演要旨〕

「ものづくり現場起点のデジタル化の推進
～ファクトリーサイエンティストの育成～」

一般社団法人 ファクトリーサイエンティスト協会 理事
きづきアーキテクト株式会社
代表取締役 長島 聡氏

■先が読めない「VUCA」の時代は、リスク
マネジメントと新価値創造の両輪

VUCA（ブーカ）とは、Volatility（不安定）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑）、Ambiguity（曖昧模糊）の頭文字から取った言葉であり、「VUCA」の時代である現在は、リスクマネジメントと自社のパーパス（ありたい姿）を踏まえた新価値創造が重要です。

■「ありもの」を組み合わせ、価値創造生
産性を向上

新価値創造は、顧客目線で仮説を描いて、既に仲間が持っている「ありもの」を組み合わせることで、競争優位を生み出し、素早く事業を創出できます。

■IoTによる価値創造生産性の向上

製造業の稼ぐ力というのは、付加価値の源泉である現場起点で向上させることが大事

2月25日（木）広島市において、82名出席（現地とオンライン）のもと、産業技術委員会を開催した。

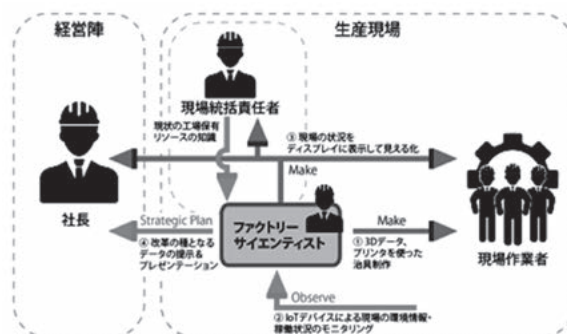
当日はファクトリーサイエンティスト協会理事、きづきアーキテクト(株) 代表取締役の長島聡氏によるご講演の後、産業技術委員会の2020年度実施結果、2021年度事業計画（案）について報告・審議を行い、原案どおり承認された。

であり、現場の従来業務をデジタル化（IoT化）し、効率化によって時間を捻出すれば、研究開発投資等の新たな価値の創出に活用できます。

■ファクトリーサイエンティスト協会設立

企業がIoTに興味があっても導入できない理由は、IoTを構想・実装できる人材が少ないことです。そこで人材育成を目的とした教育機関を設立しました。また、受講者のコミュニティ（仲間）づくりにも取り組んでいます。受講者が実装したデバイスといった「ありもの」をリスト化し、流通させることで、ものづくり企業同士をつないで、生産性向上に貢献するとともに、捻出した時間は新事業に活かし、地域を盛り上げていきたいと思っております。

＜ファクトリーサイエンティストの位置付け＞



[出典：産業技術委員会 講演資料]

(担当：中本)